

平成16年度（第48回）
岩手県教育研究発表会発表資料

保育/幼稚園教育

幼小連携の進め方に関する研究 - 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動をとおして -

研究協力園・研究協力校
ゆもと幼稚園
花巻市立湯本小学校

平成17年2月9日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
福士幸雄

《 目 次 》

| | |
|--|----|
| 研究目的 | 1 |
| 研究仮説 | 1 |
| 研究の年次計画 | 1 |
| 本年度の研究内容与方法 | 1 |
| 研究結果の分析と考察 | 2 |
| 1 幼小連携の進め方についての基本的な考え方 | 2 |
| (1) 幼小連携を図る意義 | 2 |
| (2) 幼稚園と小学校の教育課程の特徴と関連を図る視点 | 3 |
| (3) 幼小連携を図るための視点 | 4 |
| (4) 幼児児童の感性をはぐくむことの意義 | 4 |
| (5) 幼児児童の感性をはぐくむ過程 | 4 |
| (6) 幼児児童の感性をはぐくむ過程と音楽的な活動の進め方 | 5 |
| (7) 幼小連携の進め方についての基本構想図 | 6 |
| 2 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案 | 7 |
| 3 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づく保育・指導実践計画の立案 | 8 |
| (1) 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育・指導実践計画の概要 | 8 |
| (2) 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育・指導実践計画の立案 | 9 |
| (3) 検証計画 | 11 |
| 4 保育・指導実践計画案に基づく保育・指導実践とその分析・考察 | 12 |
| (1) 幼稚園における保育実践の概要 | 12 |
| (2) 小学校における指導実践の概要 | 15 |
| (3) 保育・指導実践の分析・考察 | 17 |
| 5 幼小連携の進め方に関するまとめ | 19 |
| (1) 成果 | 19 |
| (2) 課題 | 19 |
| 研究のまとめ | 20 |
| 1 研究の成果 | 20 |
| 2 今後の課題 | 20 |

おわりに

【主な参考文献及び参考URL】

研究目的

中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（平成11年12月）では、初等中等教育と高等教育のそれぞれの役割が明確に示され、幼児教育から高等教育までの全体を通じた連携・接続の課題が指摘されている。幼小教育においては、幼稚園と小学校が連携し、幼稚園における主体的な遊びを中心とした総合的な指導から、小学校における各教科等の指導への移行を円滑にすることが求められている。

しかし、文部科学省の幼小連携に関する報告において、幼稚園と小学校の連携、協力が不足している事例が挙げられており、幼小連携が十分に図られていない現状がみられる。また、幼稚園と小学校の連携や交流の機会は十分とは言えず、連携の内容も単なる情報交換的なものになりがちである。したがって、双方の教育に対する共通理解のもとに連携を図った効果的な指導が進められているとは言い難い状況である。

このような状況を改善するためには、幼稚園教員と小学校教員の合同研修会による緊密な情報交換や交流活動による互いの教育の在り方に対する共通理解をもとにしながら、幼児期・児童期のそれぞれの発達段階を踏まえた適切な指導をすることが大切である。ここでは、幼稚園と小学校の円滑な連携を図る視点として感性に着目し、幼児児童の身の回りにある音や音楽のよさや美しさを感じ取り、表現し、共有する音楽的な活動をとおして、互いの教育に対する相互理解を深め、双方の学びの場となる幼小連携の進め方を示すものである。

そこで、この研究は、幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動をとおして、幼小連携の進め方について明らかにし、幼稚園と小学校の連携を図った指導の充実に役立てようとするものである。

研究仮説

幼稚園及び小学校低学年における主体的な遊びや音楽科の授業の中で、次のような活動を発達段階を踏まえて行えば、音や音楽のよさや美しさを感じ取り表現することをとおして感性をはぐくみ、双方の学びの場となる幼小連携を進めることができるであろう。

自然音や環境音を聴き取る活動

イメージを生かして表現の工夫をする活動

つくって表現し、共有しあう活動

研究の年次計画

この研究は平成15年度から平成16年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成15年度）

幼小連携の進め方に関する基本的な考え方の検討、基本構想の立案、幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案の作成

第2年次（平成16年度）

幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づく保育・指導実践計画の立案、保育・指導実践とその分析・考察、幼小連携の進め方に関するまとめ

本年度の研究内容と方法

1 研究の目標

幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づいて保育・指導実践計画を作成し、保育・指導実践とその分析・考察をとおして、幼小連携の進め方について明らかにする。

2 研究の内容

(1) 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づく保育・指導実践計画の立案

幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づいて、保育・指導実践計画案を作成する。

(2) 保育・指導実践計画案に基づく保育・指導実践とその分析・考察

保育・指導実践計画案に基づいて保育・指導案を作成する。また、研究協力校で保育・指導実践を行い、検証計画に基づいて、その分析・考察を行う。

(3) 幼小連携の進め方に関するまとめ

保育・指導実践の成果と課題をまとめ、幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育・指導実践の妥当性と幼小連携の進め方の方向性について明らかにする。

3 研究の方法

(1) 保育・指導実践

幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づいて保育・指導実践を行い仮説の有効性を確かめる。

(2) 観察法

保育・指導実践での幼児児童の様子を観察し、仮説の検証に役立てる。

4 研究の対象

研究協力園及び研究協力校 ゆもと幼稚園及び花巻市立湯本小学校

研究結果の分析と考察

1 幼小連携の進め方についての基本的な考え方

(1) 幼小連携を図る意義

中教審答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」では、幼稚園と小学校の連携・接続の在り方についての検討の必要性が述べられ、初等中等教育から高等教育までのそれぞれの役割や連携・接続の課題を指摘している。この中で、幼稚園と小学校が連携し、幼稚園における主体的な遊びを中心とした総合的な指導から、小学校における各教科等の指導への移行を円滑にすることを「なめらかな接続」という言葉で示し、双方の教育に対する相互理解を図って連携を進めることを求めている。

幼稚園教育においては、幼児の欲求や自発性、好奇心などを重視した遊びや体験をとおした総合的な指導を行うことを基本とし、人間形成の基礎となる豊かな心情や創造力、ものごとに自分からかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度の基礎を培い、小学校以降の生活や学習の基盤を養うことが求められている。

また、小学校教育においては、個人として、国家・社会の一員として、社会生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度の基礎を身に付け、豊かな人間性を育成するとともに、自然や社会、人、文化など様々な対象とのかかわりを通じて自分のよさ・個性を発見する素地を養い、自立心を培うことが求められている。

このことから幼稚園と小学校では、学校教育の一環として、幼稚園生活の中で培った心情、意欲、態度を生かし、小学校生活においてもそれらを十分発揮し、楽しく充実した学校生活を送ることができるように指導するなど、幼児期・児童期にふさわしい教育の接続を配慮する必要がある。そのためには、双方の教育の独自性や共通性について、教師同士が相互に理解しあう機会を意図的、計画的、継続的に設けることや幼児児童の成長に対する共通理解を図ることが大切である。

これまでも幼小連携については、運動会、授業参観、一日体験入学などの学校行事による交流、生育歴や生活指導などに関する幼小連絡会などの取組がなされてきたが、それぞれの教育課程に基づく教育内容の相互理解を図った保育や指導という観点からの連携はあまり進められてこなかったのが現状である。そこで、幼小連携を進める視点として、幼児児童、教師、家庭、地域社会、保育所、行政などの関係機関、免許などの制度上の連携など様々な視点があるが、本研究では、双方の教育課程に基づく教育内容について相互理解を図った連携を進めることに焦点をあて、その教育内容については、幼稚園の表現領域と小学校音楽科の感性に焦点を当てて研究を進めることとする。

(2) 幼稚園と小学校の教育課程の特徴と関連を図る視点

ア 幼稚園の教育課程の特徴

幼稚園教育要領は、幼稚園教育の基本として、教育は環境を通して行うものであることを明示し、幼児の主体的な活動としての遊びを中心とした生活をとおして、一人一人に応じた総合的な指導を行うこととしている。

そのため、幼稚園教育要領に示されている領域は、幼児期に育てたい心情・意欲・態度を踏まえて「ねらい」や「内容」が設定されており、実際に保育をする際の手がかりとなっている。つまり、幼稚園教育要領の各領域に示す「ねらい」及び「内容」については、幼稚園修了までに幼児に育つことが期待される心情、意欲、態度などを「ねらい」として示し、その「ねらい」を達成するために幼児が経験し、教師が指導する事項を「内容」として示している。この「ねらい」と「内容」は、幼児の発達の側面から「健康」「人間関係」「環境」「言葉」及び「表現」の五領域にまとめて示されている。表現領域は、幼稚園教育要領の中で「感性と表現に関する領域」と示され、人的・物的なかかわりから感じたことや考えたことを自分なりに表現することをとおして、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを旨とし、「ねらい」と「内容」が示されている。

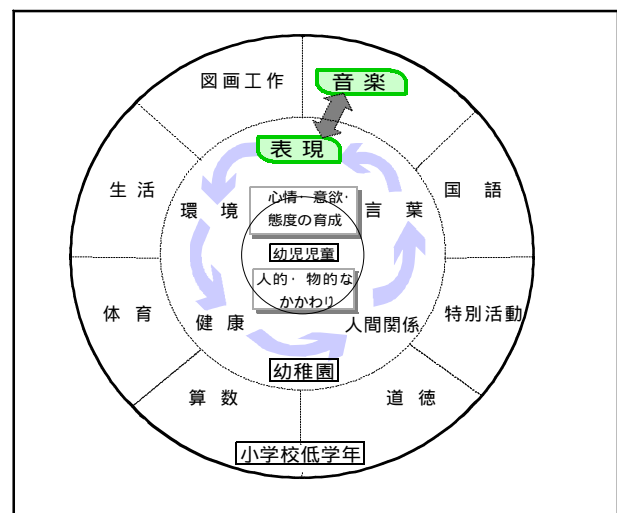
イ 小学校の教育課程の特徴

小学校における各教科等は、学校において教授すべき知識・技能等のまとまりを系統的に区分して示したものであり、各教科等の固有の目標やねらい及び内容を系統的・発展的に指導するものである。よって、小学校における各教科等の学習は、基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、系統的・発展的に学習を深めていくように構成されている。

音楽科教育においては、その活動領域を「表現」と「鑑賞」にわけ、「表現」は、さらに「歌唱」「器楽」「創作」という活動分野にわけられ、発達段階に応じて、より具体的・分析的に指導がなされていくように学習指導要領の目標や内容が構成されている。

ウ 幼稚園と小学校の教育課程の関連を図る視点

幼稚園と小学校の異なる特徴をもつそれぞれの教育課程を損ねることなくつなげるためには、より広い概念を示す幼稚園を基本にすえて、教育課程を編成すべきであると考え。その上で、小学校の各教科等との関連を踏まえて教育課程



【図1】幼稚園と小学校低学年の教育課程

を編成すると教育内容のつながりがみえてくると考える。このように考えると、前頁の【図1】に示すとおり、保育内容は、小学校教育の各教科等の基盤を担っている。このことを意識すれば、時期や発達段階により、保育内容や教科内容を効果的に指導するという適時性が明らかになってくるものと考え。そして、そのことが長期的・短期的な指導計画を作成する際の重要な視点となる。

幼稚園教育要領の表現領域では、「美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにすること」「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現すること」「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう」など、音楽的な活動につながる内容が示されている。また、小学校音楽科低学年の内容では、「情景や気持ちを想像して、イメージをもって表現すること」「拍の流れやフレーズを感じ取って、演奏したり身体表現したりすること」「音遊び、リズム遊び、ふし遊びなどを楽しむこと」などが示され、双方の教育内容に発達段階を踏まえた系統性や発展性があり、教育内容の関連を図る際の重要な手がかりがあると考え。

(3) 幼小連携を図るための視点

幼小連携のねらいは、双方の教育課程や教育内容に対する相互理解を深め、幼児児童の発達に即して一貫した見通しのある教育を行うことである。よって、双方の教師間による研修会や研究会、運動会や一日体験入学などの合同行事、幼児児童の生活や学習の様子などの連絡会は、相互理解を図る上で有効な手段である。これらの活動をとおして、双方の教育や幼児児童のとらえ方について相互理解が図られ、その上で、なめらかな接続を考慮した教育を行うために、どのような視点が大切なのか見えてくるものと考え。以下にその視点を示す。

ア 教育課程や教育内容の系統性・発展性について相互理解を図ること

イ 幼児児童の成長、育てたい心情・意欲・態度について共通理解を図ること

ウ 自然や社会、人や物などの周囲の環境とのかかわりの機会を大切にすること

この三つの視点について、合同研究会で共通理解を図った上で、保育や授業の実践に当たるとともに、その結果を交流し、成果と課題を明らかにし、改善を加えながら、次の実践に生かしていくことが、なめらかな接続を図る上で大切である。

(4) 幼児児童の感性をはぐくむことの意義

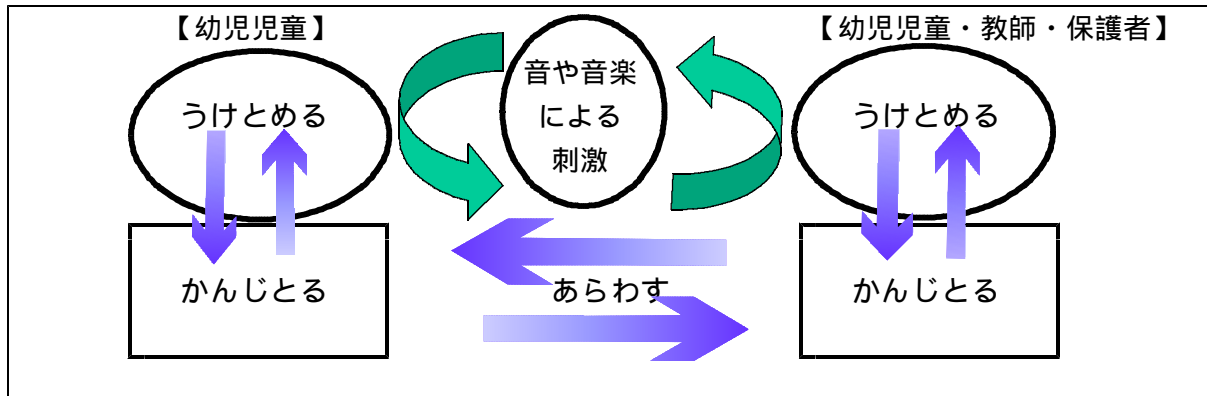
感性は、豊かな人間性の基盤づくりや心の教育の充実のために欠かせないものである。このことを音や音楽とのかかわりで考えれば、多様な音や音楽のよさや美しさに感動することなどをとおして、豊かな心をはぐくむことである。つまり豊かな心をはぐくむことは、音や音楽のよさや美しさを感じたり、表現したりする上で重要なことと考える。

感性について、幼稚園教育要領解説では、日々の生活の中で、外界からの様々な刺激を受け、それに敏感に豊かに反応したり、その中にあるおもしろさや不思議さなどに気付いたりする感覚と示されている。一方、小学校学習指導要領解説音楽編では、音楽的刺激に対する反応のことと示され、具体的には、音楽的な諸要素（リズム感、旋律感、和声感、強弱感、速度感、音色感など）の感覚的に受容される刺激に音楽的に反応することと示されている。

また、幼児期からの心の教育の在り方についての中教審への文部科学大臣の諮問の中で、生きる力の礎ともいふべき「生命を尊重する心」「他者への思いやりや社会性」「倫理観や正義感」「美しいものや自然に感動する心」など、豊かな人間性の基盤づくりとして、幼児期の心の教育の充実の必要性が述べられている。そして、豊かな人間性の基盤づくりのための視点として、「柔軟で豊かな感性」を挙げている。さらに第8次岩手県教育振興基本計画では、「連携・接続の促進」と「心の教育の充実」は適時性から並行して取り組むべき問題として掲げており、心の教育の充実という観点からも感性をはぐくむことが大切であると述べている。

(5) 幼児児童の感性をはぐくむ過程

感性をはぐくむには、次頁【図2】に示す過程があると考え。その過程では、心を揺さぶられ何かを感じたり考えたりするような対象に出会うこと、興味・関心を抱き、主体的に周囲の環境とのかかわっていくことが大切である。



【図2】感性をはぐくむ過程

ア 「うけとめる」(五感)

幼児児童は、まず自然や社会などの周囲の環境からの刺激を、「見る」「聴く」「嗅ぐ」「味わう」「触れる」という五感をとおして直感的・感覚的にとらえる傾向がある。ここでは、直感的・感覚的にとらえられた音や音楽を自分なりに受け止める過程である。

イ 「かんじとる」(感受)

自分なりに直感的・感覚的に受け止めた音や音楽を知覚したり、感じ取ったりする感受の過程である。そして、その音や音楽の雰囲気や特質などから、自分なりに音や音楽に対するイメージをもつ過程である。

ウ 「あらかわす」(表現)

イメージしたことを自分なりに、音素材、声、楽器、身体表現などの様々な手段で表現し、さらに、その表現を子ども同士や教師などのかかわりから、お互いの表現を認めあい、共有して、自分の音や音楽の世界を広げていく過程である。

このような過程を経て、主体的に音や音楽にかかわり、聴き取り、感じ取り、表現し、共有しあう心情・意欲・態度が養われ、感性をはぐくまれていくのである。幼児や小学校低学年の児童は、様々な能力が一つの活動の中で関連して同時に発揮されることもあり、「うけとめる」「かんじとる」「あらかわす」の過程は、同時になされることも段階的になされることもあると考える。また、一人では興味・関心をもてなかったこと、気付かなかったこと、感じ取れなかったこと、表現できなかったことも、他の幼児児童や教師とのかかわりや支援によって、広がりや高まりが見られるようになると思う。

(6) 幼児児童の感性をはぐくむ過程と音楽的な活動の進め方

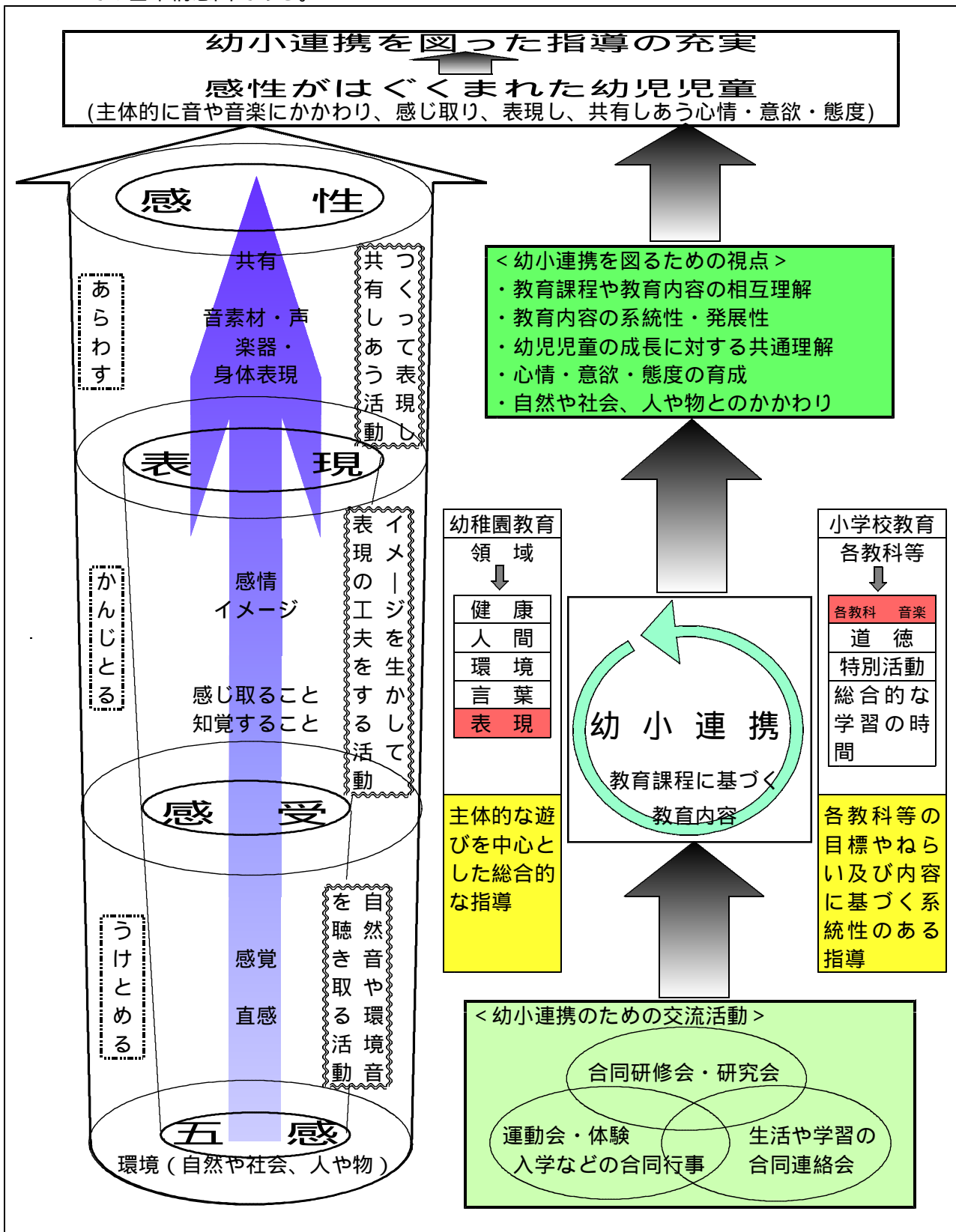
感性をはぐくむ過程は、【表1】感性をはぐくむ音楽的な活動と感性をはぐくむ過程

| | 感性をはぐくむ音楽的な活動 | 感性をはぐくむ過程 |
|---|---------------------|--------------------------------|
| 前述したとおり、「うけとめる」「かんじとる」「あらかわす」という過程で示した。これを、音楽的な活動に当てはめると、【表1】のようになると考える。このような音楽的な活動を意 | 自然音や環境音を聴き取る活動 | 「うけとめる」過程で、身の回りにある音に気づき、聴き取ること |
| | イメージを生かして表現の工夫をする活動 | 「かんじとる」過程で、感受してイメージしたことを工夫すること |
| | つくって表現し、共有しあう活動 | 「あらかわす」過程で、様々な表現方法で表現し、認めあうこと |

図的、計画的、継続的に段階を踏まえて保育や指導に当たることにより、主体的に音や音楽にかかわり、感じ取り、積極的に表現し、共有しあう心情・意欲・態度が養われ、豊かな感性をはぐくまれていくものとする。

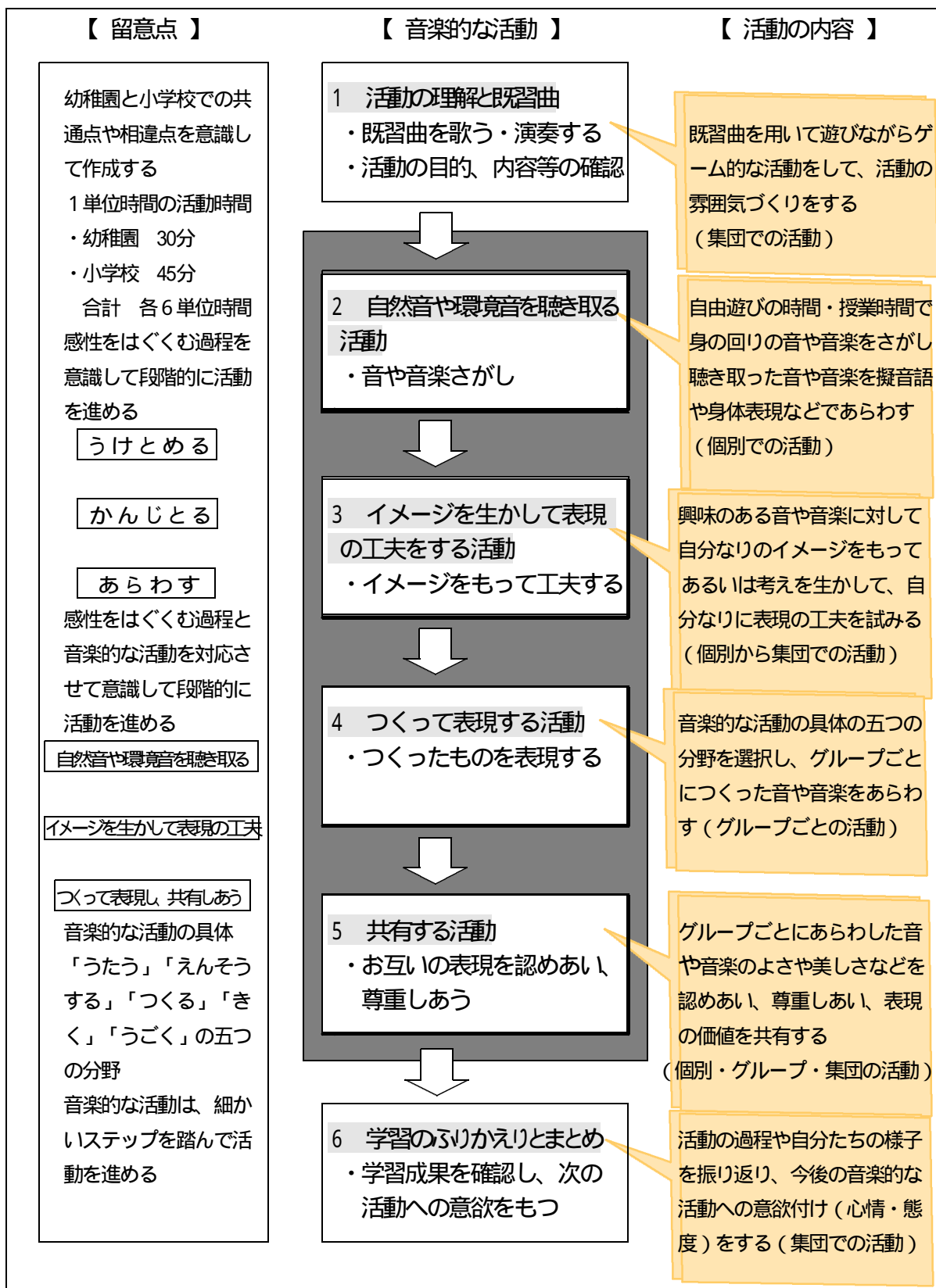
(7) 幼小連携の進め方についての基本構想図

基本的な考え方を踏まえ、本研究の基本構想図を作成した。【図3】は、幼小連携の進め方についての基本構想図である。



【図3】幼小連携の進め方についての基本構想図

- 2 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案
 基本的な考え方や基本構想をふまえ、手だての試案を【図4】のように考えた。



【図4】 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案

3 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づく保育・指導実践計画の立案
 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づき、以下に示す幼稚園における
 保育実践計画案と小学校音楽科における指導実践計画案を作成した。

(1) 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育・指導実践計画案の概要

幼稚園5歳児、小学校1年生を対象に、【表2】の保育・指導実践計画案の概要を作成した。

【表2】保育・指導実践計画案の概要

| 種別 | 日・時 | 段 階 | 主 題 ・ 題 材 | ね ら い ・ 目 標 |
|----------------------------|-----|------------------------|--------------------------|---|
| 幼 稚 園 五 歳 児 | 第一日 | うけとめる かんじとる あらわす | 「音や音楽で遊ぼう」 | 音や音楽に興味をもって、聴いたり表現したりして遊ぼう |
| | 第二日 | | 「いろいろな音を聴いて遊ぼう」 | 身の回りにあるさまざまな音に興味をもって聴いて、音を出して遊ぼう |
| | 第三日 | | 「どんな音があるかな？ Part 1」 | 身の回りにあるさまざまな音を意欲的に聴いて、音を出して遊ぼう |
| | 第四日 | | 「どんな音があるかな？ Part 2」 | 身の回りにあるさまざまな音や楽器の音を積極的に聴いて、音を出して遊ぼう |
| | 第五日 | | 「どんな音があるかな？ Part 3」 | 身の回りにあるさまざまな音を注意して聴いて遊ぼう |
| | 第六日 | | 「音素材を使って、好きな音を作って遊ぼう」 | さまざまな音素材を使って音や楽器をつかって、音を出して遊ぼう |
| | 第七日 | | 「お互いの音を聴き合おう」 | 身の回りにあるさまざまな音素材を生かしてつくった楽器を使って、音楽に合わせて音を出して遊ぼう |
| 小 学 校 一 年 生 | 第一時 | うけとめる かんじとる あらわす | 「音や音楽を聴き、表現しよう」 | 音や音楽に興味をもって、聴いたり表現したりしよう |
| | 第二時 | | 「どんな音があるかな？ Part 1」 | 身の回りにあるさまざまな楽器の音を意欲的に聴き取り、表現しよう |
| | 第三時 | | 「どんな音があるかな？ Part 2」 | 身の回りにあるさまざまな音を積極的に聴き取り、表現しよう |
| | 第四時 | | 「音素材を使って物語に合った表現の工夫をしよう」 | 身の回りにあるさまざまな音素材を効果音として挿入して表現の工夫をしよう |
| | 第五時 | | 「音素材を使って物語を表現しよう Part 1」 | 身の回りにあるさまざまな音素材を効果音として挿入して物語に合った表現の工夫をしよう |
| | 第六時 | | 「音素材を使って物語を表現しよう Part 2」 | 身の回りにあるさまざまな音素材を生かして、物語や音楽にイメージをもち、音楽に合わせて演奏し、聴き合おう |

(2) 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育・指導実践計画の立案

保育・指導実践計画の概要を基にして、幼稚園5歳児と小学校1年生を対象にした保育・指導実践計画案を作成した。各日・各単位時間ごとの主な活動内容・学習内容は、【表3】のとおりである。

【表3】保育・指導実践計画案

| 種別 | 日・時 | 主 題 ・ 題 材 | 活 動 内 容 ・ 学 習 内 容 |
|------------|-----|--------------------------|---|
| 幼稚園 五歳児 | 第一日 | 「音や音楽で遊ぼう」 | ・ 既習曲を歌う（自己紹介ゲーム、身体表現やリズム表現） ・ 手遊び（太鼓をたたきましょう、グーチョキパーで何つくろう他） ・ 曲を聴いて、自由からだを動かす |
| | 第二日 | 「いろいろな音を聴いて遊ぼう」 | ・ 既習曲を歌う（とんぼのめがね、山の音楽家など） ・ 注意して音を聴く（鈴はどこかなゲーム） ・ 音を出す工夫をする（新聞紙で音を出すゲーム） |
| | 第三日 | 「どんな音があるかな？ Part 1」 | ・ 既習曲を歌う（畑のポリカ、さんぼなど） ・ 音あてゲーム（石、木の葉、枝、ビー玉、どんぐりなど） ・ 曲に合わせて、好きな音を出す |
| | 第四日 | 「どんな音があるかな？ Part 2」 | ・ 既習曲を歌う（どんぐりころころ、笑いんぼうコスモスなど） ・ 音あてゲーム（タンブリン、鈴、ギロ、トライアングルなど） ・ 曲に合わせて、好きな音を出す |
| | 第五日 | 「どんな音があるかな？ Part 3」 | ・ 既習曲を歌う（畑のポリカ、さんぼなど） ・ 耳をすまして聴く（身の回りにある自然音・環境音など） |
| | 第六日 | 「音素材を使って、好きな音を作って遊ぼう」 | ・ 既習曲を歌う（とんぼのめがね、山の音楽家など） ・ さまざまな音素材を使って、音や楽器をつくって遊ぶ |
| | 第七日 | 「お互いの音を聴き合おう」 | ・ 既習曲を歌う（どんぐりころころ、畑のポリカなど） ・ 身の回りにあるさまざまな音素材を生かして作った楽器を使って、音楽に合わせて音を出して遊ぶ |
| 小学校 一年生 | 第一時 | 「音や音楽を聴き、表現しよう」 | ・ 既習曲を歌う（自己紹介ゲーム、身体表現やリズム表現） ・ 注意して音を聴く（タンブリンの輪、伝音ゲーム） ・ 音を出す工夫をする（新聞紙や紙袋で音を出すゲーム） |
| | 第二時 | 「どんな音があるかな？ Part 1」 | ・ 既習曲を歌う（さんぼ、じゃんけんぼんなど） ・ 音あてゲーム（タンブリン、鈴、ギロ、トライアングルなど） ・ 曲に合わせて、好きな音を出す |
| | 第三時 | 「どんな音があるかな？ Part 2」 | ・ 既習曲を歌う（山の音楽家、おもちゃのチャチャチャなど） ・ 音あてゲーム（水、鈴、木、米、小豆など） ・ 曲に合わせて、好きな音を出す |
| | 第四時 | 「さまざまな音素材を使って表現しよう」 | ・ 既習曲を歌う（さんぼ、じゃんけんぼんなど） ・ おむすびころりんを歌う ・ 身の回りにあるさまざまな音素材を生かして、効果音として音を挿入して表現の工夫をする （宿題：おむすびころりに合う音を探し、その音の出る物や楽器などを持ってくる、できれば楽器をつくってくる） |
| | 第五時 | 「音素材を使って物語を表現しよう Part 1」 | ・ 既習曲を歌う（おむすびころりん、さんぼなど） ・ おむすびころりに合わせて、どのような音を、どのようなリズムで入れたらいいか考え、音の出し方を工夫する ・ 曲に合わせて、さまざまな音素材を用いて、音を出す練習をする |
| | 第六時 | 「音素材を使って物語を表現しよう Part 2」 | ・ 既習曲を歌う（おむすびころりん、さんぼなど） ・ おむすびころりに合わせて、どのような音を、どのようなリズムで入れたらいいか考え、音の出し方を工夫する ・ 曲に合わせて、身の回りにあるさまざまな音素材を生かして表現し、その演奏を聴き合う |

保育・指導実践計画案を基にして保育案・指導案を作成した。【資料1】は、保育案を例示したものである。幼稚園第三日以外の保育案や小学校における指導案についても、これに準じて作成した。なお、保育案・指導案は、巻末の【補充資料1】に示した。

【資料1】幼稚園第三日の保育案

| 第三日「どんな音があるかな?Part1」 実施日 10月7日(木)10:15~ | |
|---|--|
| ねらい 身の回りにあるさまざまな音を意欲的に聴いて、音を出して遊ぼう | |
| 保育内容(活動内容) | 保育する上での留意点など |
| <p>1 身体表現しながら既習曲を歌おう (とんぼのめがね、山の音楽家、どんぐり、笑いんぼうコスモス、さんぽ、畑のポルカ)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで園で歌ってきた曲をみんなで楽しく身体表現しながら歌い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める ・ただ歌うのではなく、情景を思い浮かべて身体表現したり、歌詞から感じる心情を身体表現したりして活動に取り組む ・幼児の実態や様子を観察しながら、内容や時間の調整を行う |
| <p>2 ひみつの音を聴いてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱や袋、缶を振って、音を聴く ・何の音? ・どんな感じ?(~みたい?) (教室や園庭などにあるもの・・・小石、砂、木の葉、枝、など) | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな感じがするかということが、言葉でなかなか表現できないときは、擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、『みたい』のように答えさせる ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にする ・さまざまな音に対する感じ方、表現の仕方を大切にするとともに、お互いの音に対する感受を尊重する雰囲気を大切にして活動をすすめる |
| <p>3 音と音を重ねたり、まぜたりして聴いてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっきとどのように違う? ・どんな音?どんな感じ?(~みたい?) | <ul style="list-style-type: none"> ・音の違いや音の感じ方を、言葉でなかなか表現できないときは擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて答えさせる ・同じ音素材でも、違った入れ物や音素材の量の違いや違ったたたき方などで、音が変わることを直感的・感覚的にとらえさせたい |
| <p>4 みんなで「おもちゃのチャチャチャ」に合わせて音を出してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな音はどれ? ・どうして好きなのかな? | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの好きな音を大切にする気持ちをもてるように配慮する ・さまざまな音を出す方法を尊重し、認め合う雰囲気を大切にして活動を進める ・好きな音を選び、歌に合わせて、音を出して身体表現も取り入れて活動する ・音を出す楽しさを大切にして活動を進める ・一人一人が楽しんでいることを大切に見守ったり、認めたりする |
| <p>5 明日もみんなで遊ぼう</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者から今日の遊びをふりかえる ・次の活動を知らせる |

(3) 検証計画

幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育・指導実践の結果については、下記の【表4】ように検証する。

【表4】検証計画

| 検証内容 | 検証内容に対する幼児児童の状況把握 | 検証方法 |
|--|---|---|
| 「うけとめる」 「かんじとる」 「あらかず」の 各段階における幼 児児童の感性の育 成状況 | ・【表5】の見取りの視点に基づき、幼 児児童の保育・指導実践での音や音楽 に対する身体表現、言動、歌を歌った り楽器で音を出したりするなどの一連 の遊びや授業の活動の様子から把握す る | 【幼稚園】 <観察法> ・幼児の身体表現、言動、歌を歌った り、楽器をつくったり、楽器を演奏 したりする音楽的な活動の様子から 育成状況をとらえる（ビデオ） ・担当教員が幼児の音楽的な活動の様 子から育成状況をとらえる（担当教 員の参観記録） 【小学校】 <観察法> ・児童の身体表現、言動、物語や音に 対してイメージをもって表現の工夫 をしたり、歌を歌ったり、楽器を演 奏したりする音楽的な活動の様子か ら育成状況をとらえる（ビデオ） ・担当教員が児童の音楽的な活動の様 子から育成状況をとらえる（担当教 員の参観記録） |

幼児児童の感性の育成状況を把握するための見取りの視点については、【表5】のように作成した。

【表5】幼児児童の感性をはぐくむ各段階の見取りの視点

| 段階 | 音楽的な活動 | 幼児・児童の様相 | 見取りの視点 |
|-----------------------|---------------------------------|--|--|
| う け と め る | ・音や音楽と出会い、興 味をもつ ・音や音楽を聴く | 「この音は何だろう」 「この音楽は何だろう」 「おもしろい音だな」 「不思議な音だな」 「音を集中して聴く」 「音に興味・関心をもつ」 | ・幼児児童の生活経験に関連するものや、未知のものなど、多様な音素材や音楽に対して興味をもって聴いている ・音楽的な活動に楽しみながら、多様な音素材や音楽に対して、そのおもしろさや不思議さを聴いている |

| 段階 | 音楽的な活動 | 幼児・児童の様相 | 見取りの視点 |
|-------|---|--|---|
| かんじとる | <ul style="list-style-type: none"> 音や音楽に反応する 音や音楽を聴き、何の音が知覚したり、どんな感じがするか体を動かしたり、感受したりしたことを発表する | <ul style="list-style-type: none"> 「この音は だな」 「いい音だな」 「 な感じがする」 「 みたいな音」 「 みたいな感じ」 | <ul style="list-style-type: none"> ・感覚的、直感的な聴き取りから、何の音であるかという音色や響きなどの違いや音や音楽からどんな感じがするかということを、言葉、擬音語や身体表現、情景や動物など身の回りにある物にたとえて『 みたい』のように表現している |
| あからわす | <ul style="list-style-type: none"> 音や音楽からイメージしたことを表現する 繰り返し歌ったり、音を出したりする 好きな音を出す 出し方を工夫する 身体表現する 身近なもので音を出したり、楽器で演奏したりする 表現を共有しながら歌ったり、音を出したりする 他の表現を認めながら自分が考えた表現をする 友達と一緒に好きな表現をしたり、表現を変えたりして楽しむ | <ul style="list-style-type: none"> 「音を出したい」 「歌いたい」 「音や音楽に合わせて、からだを動かしたい」 「好きな音を出したい」 「好きな音を、音楽に合わせて出したい」 「音を変えて出したい」 「歌詞からイメージしたことを音で表現したい」 「今度はこんなことしたい」 「この音や音楽の他にも楽しいものはないかな」 「実際に歌ったり、音を出したりして、表現する」 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に楽しく歌ったり、音を出したりしている ・ただ歌うのではなく、情景や心情などを思い浮かべて身体表現したり、歌を歌ったり、音を出したりする ・さまざまな音を出す方法を尊重し、それぞれの好きな音を大切に、認め合う雰囲気の中で音や音楽を表現している ・好きな音を選び、歌に合わせて、音を出している（身体表現している） ・お互いの音や音楽に対する思いやイメージを大切に、認め合いながら、音や音楽を表現している ・感じ方、考え方、見方などを生かして、表現の工夫をして、歌を歌ったり楽器で音を出したりしている ・いろいろな表現に気付き模倣したり、再表現したりしながら、自分の表現や友達の表現と一緒に楽しんでいる ・好きな歌や音を何度も表現したり、さらに別な歌や音を用いて、楽しんでいる |

4 保育・指導実践計画に基づく保育・指導実践の概要とその分析・考察

(1) 幼稚園における保育実践の概要

幼稚園において行った保育実践の中で、第三日・第六日・第七日の保育実践の概要を、次頁の【資料2】及び14頁の【資料3】として示した。

また、それ以外の第一日・第二日・第四日・第五日の保育実践の概要については、巻末の【補充資料2】に示した。

【資料2】幼稚園第三日の保育実践の概要

みんなで遊ぶこと

- 1 みんなで楽しくからだをうごかして歌を歌いましょう
- 2 音あてゲームをしましょう
『何の音かな?』『どんな感じの音かな?』と耳をすまして音を聴きましょう
- 3 好きな音を選んで、「山の音楽家」に合わせて、音を出しましょう

1 からだをうごかして歌を歌いましょう

情景や心情を思い浮かべながら、歌うと自然にからだは動いていた



歌の雰囲気や歌詞などからイメージする情景や心情を大切にしながら歌うこと、それに伴って身体表現しながら歌うことを大切に活動を進めた

2 音あてゲームをしよう

T: 箱の中に音の出るものがたくさん入っています
『何の音かな?』『どんな感じの音かな?』よ~く注意して聴いてね
これは何の音かな(新聞紙をねじって音を出す)
P: 新聞紙?(大多数)
P: 紙袋?(数名)
P: カサカサした音
T: 実はこれでした(箱から新聞紙を出して見せる)
こうやって音を出していたんだよ
T: 次は何の音かな?(鈴を振って音を出す)
P: 鈴?(大多数)
P: チリンチリン?
T: 実はこれでした(箱から鈴を出して見せる)
T: 次は何の音かな(拍子木をたたいて音を出す)
P: 木?
P: 火の用心!カチカチ
P: 拍子木?
T: 実はこれでした(箱からクラベスを出して見せる)
T: 次は何の音かな?(ペットボトルに入った水を振って音を出す)
P: 水?(大多数)
P: ジャブジャブ?
T: 何に入っているのかな?
P: ペットボトル(大多数)
T: 実はこれでした(箱からペットボトルに入った水を出して見せる)

以前の活動のゲームなどで用いて幼児たちが聴いたことがある音素材から音あてをはじめ意欲付けにつながるように活動を進めた
次第に多様に聴き取れる音素材を用いて、聴き取る活動を進めた

ここまでは以前の遊びで聴いたことがある音なので、大多数の幼児が、楽しみながら音を聴き分け、どのような感じの音なのかイメージしながら遊んでいた

T: 次からは難しいかも...よ~く耳を澄まして音を聴いてね
この音は何でしょう(ビニール袋に入った乾燥わかめを振る)
P: 新聞紙(大多数)
P: 違うよ...紙?
P: わかんない...カサカサしている...
T: (袋を見せて)袋の中には何が入っているでしょう?
P: 米(数名) 小麦粉(数名) 豆(数名) ティッシュ...
T: 実はこれでした(乾燥わかめや乾燥させた豆腐)
P: エ~!
T: 次は何の音かな(ガラスの瓶を棒でたたいて音を出す)
P: コップ?
P: キンキンした音
P: ビールの瓶?
T: 実はこれでした(箱から瓶を出して見せる)

聴き取った音を擬音語や音の素材で答えたり、自由に発表していた



T: 次は何の音かな(ドングリを缶に入れて音を出す)
P: 米?
P: 豆?
P: 石?
T: 実はこれでした(箱からドングリを出して見せる)
T: 次は何の音かな(小豆を缶に入れて音を出す)
P: ビービー弾?
P: 米?
P: 小麦粉?
P: ビーズ?
P: カラカラした音?サラサラした音?
P: 堅い物...粒のもの...
P: さっきと同じ缶の中に入っていると思う

静かに集中して音を聴き、音素材に自然に近づいてきて音を確認していた



この後、缶に入った小豆、箱に入った小豆とを比較して、同じ音素材でも入れ物が違うと音が異なることをみんな聴き取った。また、ビー玉が入ったタッパーとビーズが入ったタッパーとを比較して、同じ入れ物でも中の音素材が違うと音が異なることをみんな聴き取った。さらに、フィルムケースの中に輪ゴムやストローを細かく切ったものを入れて、耳をしっかりとすまして音を聴いたりして、音あてゲームを楽しみながら進めた

3 好きな音を選んで、音を出しましょう



今日の遊びで聴いた音の中から、自分の気に入った音を一人一人が自由に選んで、班ごとに「山の音楽家」に合わせて思い思いに音を出していた
『ポコボンボン ポコボンボン~いかがです』の部分で音を出してみることを保育者が示し、楽しんで音を出すとともに、ともだちの演奏を楽しみながら聴いて遊んでいた

土曜日・日曜日におうちの人と良い音を探してきて欲しいこと、入れ物とそれに入れる音素材を持ってくることを話すとともに、保護者宛文書を配付して、家庭の協力をいただいて活動を進めた

【資料3】幼稚園第六日・第七日の保育実践の概要

第六日・第七日の主な遊び

- 1 さまざまな音素材を持ち寄って、音の出る楽器をつくって遊ぶこと
- 2 身の回りにあるさまざまな音素材を生かしてつくった楽器を使って、ゲームをしたり、音楽に合わせて音を出したりして遊ぶこと

- 1 さまざまな音素材を持ってきて、音の出る楽器をつくらう
 (三連休中に保護者と一緒にさまざまな音素材を見つけ、いいなと思った音素材を持ってくるように幼児には話をするとともに、保護者宛にお願いの文書を出した)
 a いろいろな入れ物やその中に入れる物を準備(忘れてきた幼児には、教師側で準備した物の中から選ばせ、楽器をつくるように配慮した)
 b お互いに持ってきた音素材を確認(友達は、どんな音素材を持ってきたか確認)
 c それから自分の持ってきた物で、楽器をつくる(困ったときは先生に相談するように指示する)

以下は楽器の音素材の例

例1: 卵のケースにビービー弾の玉など



例2: ペットボトルにドングリなど



班ごとにテーブルで作業を進め、接着剤やセロハンテープなども事前に準備し幼児の様子を見ながら、楽器の作成状況を評価したり、援助したりして活動を進めた。楽器が完成したら音を出して遊んだり、お互いの楽器を貸し借りして、音を出して楽しんだり、その音を教師が評価したりして活動を進めた。

幼児一人一人が、さまざまな音素材を持ってきて、それぞれの音素材を自由に見合っていた。また、班ごとに楽器をつくったが、ほとんどの幼児が、先生の援助を受けることなく、自分の力で楽器をつくっていた。楽器をつくったあとは、音を出して楽しんだり、お互いの楽器を貸し借りして、自由に音を出して遊んでいた。

- 2 身の回りにある様々な音素材を生かしてつくった楽器を使って、ゲームをしたり、音楽に合わせて音を出したりして遊ぼう

<ゲーム1>

「自分の楽器はどこにあるかな」
 円になって座り、後ろに楽器を置き、静かに楽器を左隣の友だちに渡していき、自分のつくった楽器がどこにあるか音をたよりに当てるゲーム

自分のつくった楽器の音がどこから聞こえてくるのかに注意して、音の聞こえる方向を探ろうとしていた。似たような音の楽器もあり、同じような音を聞き取った子ども達には、それでよいことを確認した。

<ゲーム2>

「リズムリレー・ゲーム」
 「おもちゃのチャチャチャ」に合わせて音を出し、リレー形式で1回ずつ音を出し、左隣の人々が次々に音を出していくゲーム

歌を歌いながら、しかも自分が音を出す順番を待ちながら、しかも間合いを感じながら音を出すのは幼児にとって難しい活動であった。自由に楽しみながら、歌を歌ったり、音を出したり、幼児の思いを生かすように活動を工夫する必要があった。

- 3 音楽に合わせて、音を出して遊ぼう



一人一人がつくった楽器を使って、「山の音楽家」に合わせて音を出していた。自分が出した音だけでなく、友だちが音楽に合わせて出した音もよく聴き合い、友だちの演奏に対して拍手をして、お互いの演奏を認め合う雰囲気の中で、楽しみながら遊んでいた。



それぞれの演奏のよさを評価して、お互いの演奏を認め合う雰囲気を大切にしなが活動を進めた。また、これからも身の回りにある音や音楽を意識して聴いたり、注意して音素材に耳を澄ましたりして、さらに音の不思議さやおもしろさに親しんで欲しいことを話して、一連の音楽的な活動をしめくった。

(2) 小学校における指導実践の概要

小学校において行った指導実践の中で、第二時・第五時・第六時の指導実践の概要を、【資料4】及び次頁の【資料5】として示した。また、それ以外の第一時・第三時・第四時の指導実践の概要については、巻末の【補充資料3】に示した。

【資料4】小学校第二時の指導実践の概要

本時の学習内容

1 みんなで楽しくからだをうごかしながら歌を歌いましょう

2 音あてゲームをしましょう

『何の音がな』『どんな感じの音がな』と耳をすまして音を聴ききましょう

3 好きな音を選んで、「おもちゃのチャチャチャ」に合わせてリズム打ちをしてみましょう

2 音あてゲームをしよう

T: 今日は、箱の中に音が出る物をたくさん入れてきました

P: やったー！(大多数)

T: 『何の音がな』『どんな感じの音がな』よーく注意して聴いてください

T: 『これは何の音がな』(箱の中で鈴を振って音を出す)

P: 鈴！(ほぼ全員、即答する)

T: どうしてわかったの？

T: 前の時でわかったゲームの中で聴いた音だから・

T: 『前はこれでした(箱の中から鈴を出して音を確認する)』

P: 次の何の音がな(音色の違う鈴の音を出す)

P: 『これは何の音がな』(数人で異なる感じの音を出す)

T: 『さっきの音と比べて細かい感じがする？』

P: 『さっきの音と比べて細かい感じがする？』

T: 『実はこれ(鈴)で、たまたま音が違う鈴を出す』

P: 『やー(注目を集める)』

P: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

T: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

T: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

P: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

T: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

T: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

P: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

T: 『(同じ鈴で音を出している子どもが多数いた)』

1 からだをうごかして歌を歌いましょう

歌の雰囲気や歌詞の内容から、情景や心情を思い浮かべ、自然にからだを動かして歌を歌っていた



歌の雰囲気や歌詞の内容から、情景や心情を思い浮かべ、自然にからだを動かして活動を進めた

このまでは前の時間のゲームなどで聴いたことがある音なので、多くの子どもが、楽しみながら、どのような音がなっているのかイメージしながら音を聴き分けることができた

T: 次は何の音がな(箱の中でトライアングルの音を出す)

P: トライアングル(大多数)

T: どうしてわかったの？

P: 発表会で聴いたことがある(大多数)チーンという感じ(多数)

T: 次はよく聴かないよ(マラカスを振って音を出す)

P: マラカス(多数)シャカシャカした感じの音・サラサラした感じの音・

T: 『実はこれ(マラカスを箱から出して音を出す)』

T: 『次は何の音がな(箱の中でカバサの音を出す)』

P: エラ？

P: エラサラした音

P: マラカス？

P: マラカスに似ているけど違うよ・

T: 『実はこれ(箱から出して見せる)』

P: 『何それ？どうやって音を出すの？見たことがない楽器だね・(教師の回りの集まってくる)』



聴き取った音を擬音語や音の素材で答えたり、自由に発表していた

T: こうやって音を出すと音の出し方の真似をする)

P: 『(口を動かして音を出してみたい)』

T: マラカスとカバサの音は・

P: 『似たよ』

T: 『次は何の音がな(シェーカーの音を出す)』

P: 『なんだら石？』

P: 『小豆カラス？』

P: 『カラスカラス？』

P: 『何か？』

P: 『(静かに集中して音を聴き、素材の違いで音が異なることに気づき積極的に発表していた)』

P: 『(静かに集中して音を聴き、素材の違いで音が異なることに気づき積極的に発表していた)』

T: 『(静かに集中して音を聴き、素材の違いで音が異なることに気づき積極的に発表していた)』

3 好きな音を選んで、音を出しましょう



今日の授業で聴いた音の中から、自分の気に入った音を一人一人が自由に選んで、班ごとに「山の音楽家」に合わせて音を出していた

『ポコボンボン ポコボンボン～』

この部分で音を出すこと、リズムを教師が示し、「山の音楽家」に合わせて、指定したリズム打ちをして、楽器の音を出していた

いい音を探してきて欲しいこと、いい音が出る楽器をつくって来てほしいこと、「おもてびころりん」の曲の雰囲気や物語の雰囲気に合う音を探してくることを話して、次時の活動の意欲付けを行った

- 15 -

【資料5】小学校第五時・第六時の指導実践の概要

第五時・第六時の主な学習内容

- 1 「おむすびころりん」の曲想や物語の雰囲気を感じ取り、そのイメージにあった音を選び、リズムや音の出し方を工夫する
- 2 「おむすびころりん」に合わせて、様々な音素材を生かしてリズムや音の出し方を工夫し、演奏を聴き合って、それぞれの演奏のよさを認め合う

1 「おむすびころりん」の曲想や物語の雰囲気合った音を選び、そのリズムを工夫しよう

- T: まず「おむすびころりん」を歌って、この曲に合った音を探してみよう
 (事前に休日等を利用して、音を探したり、音が出る楽器をつくったりしてくるよう指示している)
- T: 班ごとに集まって、実際にさまざまな音を出してみよう みんなでふさわしい音を選んでみよう
 選ぶことができそうか確認するとともに、困ったときは先生に相談するよう指示する
 (児童は班ごとに集まって話し合いをはじめる 以下は児童の声)
- P: コロコロころがる感じがいいね
 P: おじいさんが楽しそうになる音がいいね
 P: 暗い音より明るい音がいいかな
 P: いろいろな音を出して考えようよ
 P: せっかくだから、もってきた音を全部使おうよ・・・にぎやかな感じができるかも・・・
- T: 音が決まったら、次はどんなリズムがいいか考えてみようね
 (以下は児童の声)
- P: 2つに分かれて、リズムを打とうか・・・
 P: ねずみやおむすびの感じを出すために、かわいい音がいいかな・・・
 P: 歌詞のないところで音を出せばいいんじゃないの・・・
 P: 1番から4番まで、全部違うリズムを入れようか・・・
 P: 3番や4番はうれしい感じを出したいな・・・
 P: 1番から4番まで、自分たちがもってきた音をすべて使って演奏したらどうかな・・・

「おむすびころりん」の曲の雰囲気や物語から受ける印象を基にして、この曲に合うと考える音を探したり、つくったり、もってきたりする活動を進めた音素材を選んだら、次にリズムの工夫を班ごとに話し合ってみよう、そのリズム打ちを練習するよう活動を進めた

「おむすびころりん」に合った音を選ぶ活動は、すべての班が話し合いをして、自分たちで音を選ぶことができた
 また、班ごとに話し合ってみよう、そのリズム打ちを練習するよう活動を進めた

2 「おむすびころりん」の曲想や物語の雰囲気合った音を使って、リズムや音の出し方を工夫しよう

- T: 「おむすびころりん」に合った音やリズムを考えることができた班は、もう一つ考えて欲しいことがあるんだけど
 P: なんてこと?
 T: もし余裕があったら、音の出し方を工夫してみたいな
 T: 例えば、たたき方を変えて音を変えてみたり、音の強さを変えてみたり、できれば工夫した理由が言えるといいな
 (イメージをもつことの大切さを伝える)
- P: やってみよう

リズムを工夫し終わった班は、音の出し方も吟味しはじめ、練習をしていた



- T: 音の出し方を工夫した班はあるかな (机間指導しながら)
- P: 4番は強く音を出す工夫をしたよ
- T: やってみせてくれるかな
 (自分たちで歌いながら演奏してみせる)
- T: よく考えたね・・・頑張ってたんだね・・・
- T: どうして4番は強く音を出すことにしたのかな?
- P: おじいさんの嬉しい気持ちをあらわしたかったから
- P: 明るい雰囲気を出したかったから

曲想や物語から受けた印象を大切にして、音の出し方をどのように工夫すればよいか話し合っていた班もあった
 どの班もリズムや音の出し方を工夫する話し合いをしていた

この後、選んだ音を生かして、工夫したリズムや音の出し方を班ごとに自分たちで歌を歌いながら練習した一人ずつリレー形式のようにリズムを打ったり、音素材を変えてリズムを打ったり、情景や心情をイメージしながら音を出したり、いずれの班もそれぞれ創意工夫を生かして、楽しく活動を進めた

3 お互いの演奏を聴き合い、それぞれの演奏のよさを認め合う



それぞれの班が、自分たちの選んだ音を生かして、「山の音楽家」に合わせて、リズムや音の出し方を工夫して演奏をしていた
 リズムも音の出し方も、教師が示したものではなく、自分たちが話し合ってみよう、そのリズム打ちを練習するよう活動を進めた

自分たちで音を選び、リズムや音の出し方を工夫したこと、「おむすびころりん」の曲想や物語の雰囲気を感じ取った演奏であったこと、を評価して授業を終わった

(3) 保育・指導実践の分析・考察

ア 幼稚園における保育実践による感性の育成状況

(ア) 幼児の音楽的な活動の様子

「うけとめる」段階については、音や音楽との出会いの場面で「この音は何だろう」「この音楽は何だろう」という気持ちで活動している様子が、私語をすることなく注意して音や音楽を聴き取ろうとしている姿から見取ることができた。また、音や音楽を聴き取る段階で、その表情や身体反応から、「不思議な音だな」「聴いたことがある音だな」という気持ちを見取ることができた。さらに、次第に音素材の方へ近づいてきたり、もっと注意して聴こうとして耳に手をあてたりするなど、その表情やしぐさから見取ることができた。

「かんじとる」段階については、「この音はキンキンした音」「水のような音」「柔らかいサラサラした感じがする」のように、音色や響きの違いなどから感じ取ったことを、言葉、擬音語や身体表現、情景や動物などの身の回りにある物にたとえて答えるなど、自分なりの感じ取りを自分なりの表現方法で、積極的に表現している様子から見取ることができた。

「あらわす」段階については、音や音楽からイメージしたことを生かして、好きな音素材を選び、自分なりの好きな音が出る楽器をつくり、楽器の音を楽しんだり、友達の楽器と交換してその音色や響きの違いを楽しんでいる様子から見取ることができた。また、音楽に合わせて自由に音を出したり、繰り返し歌ったり演奏したりして、友達と一緒に自分なりの好きな表現をしながら楽しむ様子から見取ることができた。

なお、幼稚園の保育実践で「うけとめる」「かんじとる」「あらわす」という3つの感性をはぐくむ段階が顕著に表れる具体的な音楽的な活動の様子の分析を、13頁の【資料2】と14頁の【資料3】に示した。

(イ) 担当教員の観察による幼児の音楽的な活動の様子

保育実践中に担当教員に見取っていただいた幼児の活動の様子の概要を【表6】に示した。

【表6】担当教員の観察による幼児の音楽的な活動の様子

| 感性をはぐくむ段階 | 幼児の音楽的な活動の様子 |
|-----------|---|
| 「うけとめる」 | <ul style="list-style-type: none">・多様な音素材や音楽に興味をもって楽しそうに聴いている・注意して耳をすまして音や音楽を聴こうとしている・音素材に近づいたり、じっくり音を聴くために、注意して音を聴くように友達をうながしたりしている |
| 「かんじとる」 | <ul style="list-style-type: none">・言葉のみならず擬音語で音の感じを表現している・情景や動物、身の回りにある物にたとえて『 みたい』のように表現している |
| 「あらわす」 | <ul style="list-style-type: none">・意欲的に楽しく歌ったり、音を出したりしている・情景や心情などを思い浮かべて身体表現したり、歌を歌ったり、音を出したりしている・好きな音を選び、歌に合わせて、音を出している（身体表現している）・幼児の思いやイメージを、歌や音と一緒に表現している・いろいろな表現に気付き、自分の表現や友達の表現と一緒に楽しんでいる・好きな歌を何度も歌ったり、音楽に合わせて自由に音を出している・お互いの楽器の音を楽しんだり、楽器を交換して遊んでいる |

イ 小学校における指導実践による感性の育成状況

(ア) 児童の音楽的な活動の様子

「うけとめる」段階については、音や音楽との出会いの場面などで「この音は何だろう」「この音楽は何だろう」という気持ちで活動している様子を、お互いに私語を制止する言動や私語をしないで集中して静かに音や音楽を聴き取ろうとする姿から見取ることができた。また、「声に出して歌ってみたい」「音を出して演奏してみたい」という気持ちを言葉や表情などのしぐさで表現しており、それらの様子から見取ることができた。

「かんじとる」段階については、「マラカスのような音」「軽くてサラサラした感じがする音」など、音や音楽を知覚しどんな感じがするか、例えば音色や響きの違いなどから感じ取ったことを、言葉、擬音語や身体表現、情景や動物などの身の回りにある物にたとえて答えるなど、一人一人の感じ方や考え方を自分なりの表現方法で積極的に表している様子から見取ることができた。

「あらわす」段階については、音や音楽からイメージしたことを生かして、好きな音素材や好きな音の楽器を選び、あるいは好きな音が出る楽器をつくり、音を出す姿から見取ることができた。また、「おむすびころりん」の曲想や物語の雰囲気からイメージしたことを生かして、リズムや音の出し方を工夫し、音楽に合わせてリズム打ちしたり、音楽に合った音の出し方を工夫したり、音楽に合わせて繰り返し歌ったり音を出したりして、友達の考えや感じ取りを尊重し認め合いながら一緒に表現を楽しんでいる様子から見取ることができた。

なお、小学校の指導実践で「うけとめる」「かんじとる」「あらわす」という3つの感性をはぐくむ段階が顕著に表れる具体的な音楽的な活動の様子の分析を、15頁の【資料4】と16頁の【資料5】に示した。

(イ) 担当教員の観察による児童の音楽的な活動の様子の把握

指導実践中に担当教員に見取っていただいた児童の活動の様子の概要を【表7】に示した。

【表7】担当教員の観察による児童の音楽的な活動の様子

| 感性をはぐくむ段階 | 児童の音楽的な活動の様子 |
|-----------|---|
| 「うけとめる」 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な音素材や音楽に興味をもって楽しそうに聴いている ・注意して耳をすまして音や音楽を聴いている ・音素材に近づいたり、じっくり音を聴くために、注意して音を聴くように友達をうながしたりしている |
| 「かんじとる」 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉のみならず擬音語で音の感じを表現している ・情景や動物、身の回りにある物にたとえて『 みたい』のように表現している |
| 「あらわす」 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に楽しく歌ったり、音を出したりしている ・ただ歌うのではなく、情景や心情などを思い浮かべて身体表現したり、歌を歌ったり、音を出したりしている ・様々な音を出す方法を尊重し、それぞれの好きな音を大切に、認め合う雰囲気の中で、音や音楽を表現している ・お互いの音や音楽に対する思いやイメージを大切に認め合いながら、音を出している ・自分なりの感じ方、考え方を生かして、表現の工夫をしている ・感じた思いやイメージを、歌や音と一緒に表現している ・いろいろな表現に気付き、みんなで表現の工夫をしている |

ウ 保育・指導実践の考察

以上の結果をもとに、幼稚園と小学校における保育・指導実践の考察を次のようにまとめた。

- (ア) 「自然音や環境音を含むさまざまな音素材を聴き取る活動」「音や音楽から感じ取ったことやイメージしたことを生かして、音素材やその音の出し方を工夫する活動」「音素材や楽器を選び音楽に合わせて音を出し、音や音楽を共有する活動」は、幼児児童の感性の育成状況の分析から、感性をはぐくむことに効果があったと考える。
- (イ) 幼児が遊びをとおして楽しみながら音楽的な活動をする保育、児童が音や音楽のよさや美しさを感じ取らせ、イメージしたことを生かして表現の工夫や表現をさせる指導について、幼児児童の発達段階を意識し配慮して音楽的な活動を行うことが、幼児児童の実態に即した適切な保育・指導を行う上で効果があったと考える。
- (ウ) 幼稚園の表現領域と小学校音楽科の表現領域の双方の教育内容を生かして音楽的な活動を位置付けた保育・指導は、幼稚園における主体的な遊びを中心とした総合的な指導と小学校における音楽科の指導の系統性・発展性に配慮した保育・指導につながり、「なめらかな接続」を図った保育・指導を行う上で効果があったと考える。

5 幼小連携の進め方に関するまとめ

本年度の研究目標は、2年次研究の完結年度として、作成した手だての試案に基づき、保育・指導実践計画を立案し、保育・指導実践とその分析・考察をとおして、幼小連携の進め方の方向性を示すことであった。

ここでは、保育・指導実践によって明らかになった成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

- ア 身の回りにあるさまざまな音や音楽などの音素材に豊かに反応したり、そのおもしろさや不思議さなどに気付いたりする感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育や指導を行うことは、豊かな人間性の基盤づくりや心の教育の充実が大切な幼児期・児童期において必要不可欠な保育・指導内容であること
- イ 幼稚園と小学校の双方の教育課程や教育内容に対する相互理解を深めて教育を行うことは、段差のない見通しをもった意図的・計画的・継続的な保育・指導となり、その教育内容の系統性・発展性を図る上でも大切な視点であること
- ウ 幼児児童の発達段階や育てたい心情・意欲・態度について共通理解を図って協力して保育・指導に当たることは、見通しのある一貫した教育活動を行うこととなり、幼児児童の発達に即した生活経験や学習経験を広げ、幅広いものの見方や考え方を育てる上で効果があること
- エ 自然や社会、人や物などの周囲の環境とのかかわりを大切にして保育・指導を行うことは、幼児児童に「共に遊び・学ぶ対象や仲間」の存在を意識させることができ、自主的な活動を促したり学習空間を広げたりしながら多角的なものの見方や考え方を育てる上で効果があること
- オ 幼稚園表現領域と小学校音楽科の表現領域に焦点を当て、その系統性・発展性に配慮して見通しのある保育・指導を行うことは、幼小連携の進め方の重要な一側面であり、幼稚園の各五領域と小学校の各教科等との系統性・発展性に配慮した教育活動を図る上で大切な視点であること

(2) 課題

- ア 幼稚園の他領域と小学校の他教科における系統性・発展性を図った保育・指導についても検討すること
 - イ 幼稚園と小学校の教育課程の相互理解、幼児児童の発達段階の共通理解をさらに図りながらそれぞれの独自性・共通性を理解して保育・指導を行うこと
- 以上のことから、幼小連携の進め方についての基本的な考え方に基づいて、幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育・指導が、双方の学びの場となり、幼小連携の進め方の充実に役立つという見通しをもつことができた。

研究のまとめ

この研究は、平成15年度から平成16年度の2年間にわたって行われたものであり、ここでは2年間の研究の成果と課題についてまとめる。

本研究の目的は、幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動をとおして、幼小連携の進め方について明らかにし、幼稚園と小学校における保育や指導の充実に役立てようとするものである。

研究第1年次の幼小連携の進め方についての基本的な考え方、基本構想や手だての試案に基づき、研究第2年次は、作成した保育・指導実践案に基づく保育・指導実践とその分析と考察を行い、幼小連携の進め方の方向性を示すという流れで研究を進めた。

以下、具体的な研究内容に即して述べる。

1 研究の成果

(1) 幼小連携の進め方についての基本的な考え方、基本構想の検討

先行研究や文献を基に、幼小連携の進め方を検討し、その基本的な考え方として、幼稚園と小学校の教育課程に対する相互理解、幼児児童の発達段階に対する共通理解、人的・物的なかわり合いを示し、基本構想を立案することができた。

(2) 感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案の作成

基本的な考え方や基本構想を基に、感性をはぐくむ過程を「うけとめる」「かんじとる」「あらわす」という段階で示し、感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案を作成することができた。

(3) 幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づく保育・指導実践計画の立案

幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた試案に基づき、幼稚園における保育実践計画案と小学校音楽科における指導実践計画案を作成することができた。

(4) 保育・指導実践計画案に基づく保育・指導実践とその分析・考察

保育・指導実践計画案に基づき行った保育・指導実践をまとめ、その分析・考察をすることができた。

(5) 幼小連携の進め方に関する研究のまとめ

保育・指導実践計画案の作成や保育・指導実践の分析・考察から、幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を位置付けた幼小連携の進め方の方向性をまとめることができた。

2 今後の課題

(1) 各幼稚園と各小学校の実状や幼児児童の実態を考慮して、それぞれの条件に即したさらなる展開を構想していく必要がある。

(2) 幼稚園教育要領に示す他領域や小学校指導要領に示す他教科等との系統性・発展性に配慮した保育・指導実践を構想していく必要がある。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力園・研究協力校の先生方、幼児児童の皆さんに心からお礼を申し上げます。

【主な参考文献】

- 秋田喜代美監修(2002), 『幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例』, 小学館
東洋他編(1999), 『発達心理学ハンドブック』, 福村出版社
安部富士男著(1999), 『感性を育てる保育』, 国土社
依田新監修(1979), 『教育心理学事典』, 金子書房
川崎チヨ子編著(1989), 『幼稚園の教育課程と指導計画』, 明治図書
角尾稔他編著(1979), 『教育学講座第4巻 - 就学前教育 - 』, 学研
角尾和子他編著(1999), 『保育・幼児教育シリーズ表現』, 川島書店
岸井勇雄他編著(2000), 『表現 「感性と表現」改訂版』, チャイルド本社
岸井勇雄他編著(2000), 『表現 「音楽的表現」改訂版』, チャイルド本社
黒川健一著(1990), 『感性と表現に関する領域「表現」』, 東京書籍
諏訪きぬ編著(2001), 『現代保育学入門』, フレーベル館
高橋史朗編集(1997), 『現代のエスプリ～感性教育～』, 至文堂
高橋史朗編集(1997), 『癒しの教育相談理論』, 明治図書
高橋史朗著(1998), 『臨床教育学と感性教育』, 玉川大学出版部
森上史朗著(2000), 『新しい教育要領・保育指針のすべて』, フレーベル館

【参考URL】

- 上越教育大学学校教育学部附属幼稚園 <http://www.juen.ac.jp/kids/youtien.html>
鳴門教育大学学校教育学部附属幼稚園 <http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp/>
幼小連携の進め方 <http://www2s.biglobe.ne.jp/~atsushif/sotsuron/contents.html>

補 充 資 料

目 次

- 【補充資料 1】 感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育案及び指導案 ----- 資 1 ~ 資 13
- 【補充資料 2】 幼稚園における保育実践の概要 ----- 資 14
- 【補充資料 3】 小学校における指導実践の概要 ----- 資 15

【補充資料1】 幼児の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた保育案

| 第一日「音や音楽で遊ぼう」 実施日 10月5日(火) 10:15~ | |
|--|--|
| ねらい 音や音楽に興味をもって、聴いたり表現したりして遊ぼう | |
| 保育内容(活動内容) | 保育する上での留意点など |
| 1 既習曲を歌う (とんぼのめがね、山の音楽家、どんぐりころころ、さんぼ) | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで園で歌ってきた曲をみんなで楽しく歌ったり、聴いたりして活動の意欲付けをする。 ・ただ歌うのではなく、情景を思い浮かべて身体表現したり(とんぼのめがね・何を見ていたのかな?夕焼けの美しさを思い浮かべイメージしながら身体表現する活動)それぞれの状況・心情を身体表現したり(どじょうとどんぐりの歌詞からイメージすることを身体表現する活動、保育者が短調でどんぐりの気持ちを表現)する活動を取り入れる。 ・山の音楽家では、「キュキュキュ」「ピピピ」「ポコポンポン」と実際の音を比べて、その表現のおもしろさを感じ取る活動をする。 ・身体表現やゲームを取り入れて、これからの音楽的な活動を楽しく進められるよう雰囲気づくりに努める。 |
| 2 簡単な歌や身体表現をともなった手遊びゲームをする <ul style="list-style-type: none"> ・ やきいもグーチョキパー(または、げんこつやまのためきさん) ・グーチョキパーで何つくろう ・太鼓をたたきましょう | <ul style="list-style-type: none"> ・正確さや理屈ではなく、感覚的で自由な取組を重視する。 ・みんなで考えながら(確認しながら)活動を進める。 ・じゃんけんチェーンを作りながら活動する。 ・うさぎ、かに、ちょうちょ、雪だるま、鏡餅、カタツムリ、イヤリング、天狗、などみんなで考えながら活動する。 |
| 3 おもちゃのシンフォニーを聴いて、みんなで曲にあわせて自由に動く <ul style="list-style-type: none"> ・鳥の声 それに合った動き(鳥のまね) ・鳥の声 どんな感じ?(~みたい?) | <ul style="list-style-type: none"> ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にする。 ・鳥の声に反応することを大切にして活動させる。 ・鳥の声をイメージして自分なりの身体表現ができるように配慮する。 |
| 4 明日もみんなで遊ぼう | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者から今日の遊びを振り返る。 ・次の活動を知らせる。 |

第二日「いろいろな音を聴いて遊ぼう」 実施日 10月6日(水)10:15~

ねらい 身の回りにある様々な音を興味をもって聴き、音を出して遊ぼう

| 保育内容(活動内容) | 保育する上での留意点など |
|---|---|
| 1 既習曲を歌う (とんぼのめがね、山の音楽家、どんぐり、笑いんぼうコスモス、さんば、畑のポルカ) | ・園で歌っている曲をみんなで楽しく歌い、活動の意欲付けをする。 ・ただ歌うのではなく、情景を思い浮かべて身体表現したり、歌詞から感じる心情を身体表現したりして活動に取り組む。 |
| 2 前時の自己紹介ゲームなどを行う 「畑のポルカ」で、踊りなど身体表現を入れて遊ぶ 『 さんのまわりで～ さんをつかまえて ポルカをおどろう』 | ・幼児の実態や様子を観察しながら、内容や時間の調整を行う。 ・これからの音楽的な活動を楽しく進められるよう雰囲気づくりに努める。 ・これからの音楽的な活動のおおよそのイメージをもたせる。 |
| 3 音の強い、弱いを意識して、身体表現しながら、歌を歌う 『大きな栗の～』『中ぐらいな栗の～』 『小さな栗の～』 | ・音の強弱を意識できるように、歌詞を変えて、さらに身体表現で強弱を意識しながら活動する。 ・身体表現やゲームを取り入れて、音楽的な活動を楽しく進める。 |
| 4 みんなで音をだしてみよう ・伝音ゲーム ・手回しゲーム ・紙袋で音を出すゲーム ・鈴はどこかなゲーム | ・感覚的、直感的な聴き取りや活動を大切にして、ゲームをすすめる。 ・様々な音を出す方法を尊重し、認め合う雰囲気を大切にしてゲームをすすめる。 ・音を出す楽しさを大切にして活動を進める。 ・一人一人が楽しんでいることを大切に見守ったり、認めたりする。 |
| 5 明日もみんなで遊ぼう | ・保育者から今日の遊びを振り返る。 ・次の活動を知らせる。 |

第三日「どんな音があるかな? Part1」 実施日 10月7日(木)10:15~

ねらい 身の回りにある様々な音を意欲的に聴いて、音を出して遊ぼう

| 保育内容(活動内容) | 保育する上での留意点など |
|--|--|
| 1 既習曲を歌ったり、音楽的な活動をする ・身体表現をともなった音楽ゲーム | ・これまで園で歌ってきた曲をみんなで楽しく歌ったり、身体表現のゲームを行い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 |
| 2 ひみつの音を聴いてみよう ・箱や袋、缶を振って、音を聴く ・何の音? ・どんな感じ?(~みたい?) (教室や園庭などにあるもの・小石、砂、木の葉、枝、など) | ・前日の活動内容を振り返り、活動のイメージをもたせる。 ・どんな感じがするかということが、言葉でなかなか表現できないときは、擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、『みたい』のように答えさせる。 ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にする。 |
| 3 音と音を重ねたり、まぜたりして聴いてみよう ・さっきとどのように違う? ・どんな音?どんな感じ?(~みたい?) | ・音の違いや音の感じ方を、言葉でなかなか表現できないときは擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて答えさせる。 |
| 4 みんなで「おもちゃのチャチャチャ」に合わせて音をだしてみよう ・好きな音はどれ? ・どうして好きなのかな? | ・お互いの好きな音を大切にする気持ちをもてるように配慮する。 ・音を出す楽しさを大切にして活動を進める。 ・一人一人が楽しんでいることを大切に見守ったり、認めたりする。 |
| 5 明日もみんなで遊ぼう | ・保育者から今日の遊びを振り返る。 ・次の活動を知らせる。 |

第四日「どんな音があるかな? Part2」 実施日 10月8日(金)10:15~

ねらい 身の回りにある様々な音や楽器の音を聴いて、音を出して遊ぼう

| 保育内容(活動内容) | 保育する上での留意点など |
|---|--|
| <p>1 既習曲を歌ったり、音楽的な活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体表現をともなった音楽ゲーム | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで園で歌ってきた曲をみんなで楽しく歌ったり、身体表現のゲームを行い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 ・前日の活動内容を振り返り、今時の活動のイメージをもたせる。 |
| <p>2 前日に聴いたひみつの音をもう一度聴いてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱や袋、缶を振って、音を聴く ・何の音? ・どんな感じ?(~みたい?) <p>(教室や園庭などにあるものの他に、日常生活の中でよく聴く音も準備する)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな感じがするかということが、言葉でなかなか表現できないときは、擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、『みたい』のように答えさせる。 ・生活の中にある音を注意してよく聴くように指示しながら活動を進める。 |
| <p>3 園内の楽器でも好きな音を探してみよう</p> <p>園にはどんな楽器があるかな?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の音かな? ・どんな感じがするかな? | <ul style="list-style-type: none"> ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にする。 ・どんな音であるか、音への感じ方などを、言葉でなかなか表現できないときは、擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、答えさせる。 ・園にある楽器のみならず、打楽器中心に、トライアングル、タンブリン、鈴などの他に、カウベル、拍子木などを準備する。 |
| <p>4 みんなで「山の音楽家」に合わせて音を出してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな音はどれ? ・どうして好きなのかな? | <ul style="list-style-type: none"> ・好きな音を選び、歌に合わせて、音を出して身体表現も取り入れて活動する。 ・お互いの好きな音を大切にする気持ちをもてるように配慮する。 ・音を出す楽しさを大切にして活動を進める。 ・一人一人が楽しんでいることを大切に見守ったり、認めたりする。 |
| <p>5 明日もみんなで遊ぼう</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者から今日の遊びを振り返る。 ・次の活動を知らせる。 ・前もって、幼児には連休中に気に入った音を探すことを指示しておく。(気に入った音素材とそれを入れる入れ物を準備してもらうように指示する) ・保護者にも連絡帳に文書を入れて協力を依頼する。 |

第五日「どんな音があるかな? Part3」 実施日 10月12日(火) 10:15~

ねらい 身の回りにある様々な音を注意して聴いて遊ぼう

| 保育内容(活動内容) | 保育する上での留意点など |
|--|--|
| 1 既習曲を歌ったり、音楽的な活動をする ・身体表現をともなった音楽ゲーム | ・これまで園で歌ってきた曲をみんなで楽しく歌ったり、身体表現のゲームを行い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 |
| 2 この音は何だろう?(前回の振り返り) ・箱や袋、缶を振って、音を聴く ・自由あそびで見つけた音を聴き合う | ・これまで見つけた音を聴き合い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 ・前日の活動内容を振り返り、今時の活動のイメージをもたせる |
| 3 静かに耳をすましてみよう ・どんな音が聞こえるかな? ・何の音かな? ・どんな感じがする音かな? | ・耳をすまして聴こえてきた音は、可能な限り録音したりメモをとったりするなど、記録をとっておく。以後の活動に生かす。 ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にする。 |
| 4 これまで見つけた身の回りにある音素材を振り返り、自分の好きなものを選び、音が出る楽器を工夫してつくる | ・これまでの音楽的な活動で用いられた音素材は、可能な限りこれからの活動の素材としてとっておく。 ・また、録音などで音素材の記録をとっておき、必要に応じて活動に生かす。 |
| 5 明日もみんなで遊ぼう | ・保育者から今日の遊びを振り返る。 ・次の活動を知らせる。 |

第六日「さまざまな音素材を使って、自分の好きな音をつくって遊ぼう」

実施日 10月14日(木) 10:15~

ねらい 自分達が選んだ様々な音素材を使って音や楽器を作って、音を出して遊ぼう

| 保育内容(活動内容) | 保育する上での留意点など |
|--|--|
| 1 既習曲を歌ったり、音楽的な活動をする | ・これまで園で歌ってきた曲をみんなで楽しく歌ったり、身体表現のゲームを行い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 |
| ・身体表現をともなった音楽ゲーム | |
| 2 自分の好きな音素材を選び、その音に対するイメージをもって、音を出す工夫をする | ・これまで見つけた音を聴き合い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 |
| | ・前日の活動内容を振り返り、今時の活動のイメージをもたせる |
| 3 自分の楽器をつくる | ・保護者の協力をいただいて準備した音素材とそれを入れる容器を使って、自分の気に入った音をつくる。 |
| | ・音素材の量により音が違ってくること、様々な音の出し方に気 |
| | 付かせること、作成する途中でのつまづきなどを支援しながら活動を進める。 |
| | |
| | |
| 4 お互いがつくった楽器で遊ぶ | ・それぞれがつくった楽器が、どんな音であるか、その音がどんな感じがするか、どのような工夫をしているか、確認しながら活動を進める。 |
| | ・これまでの音楽的な活動で用いられた音素材は、可能な限りこ |
| | れからの活動の素材としてとっておく。 |
| | また、録音などで音素材の記録をとっておき、必要に応じて活 |
| | 動に生かす。 |
| | |
| | |
| 5 明日もみんなで遊ぼう | ・保育者から今日の遊びを振り返る。 |
| | ・次の活動を知らせる。 |

第七日「お互いの音や音楽を聴き合おう」 実施日 10月15日（金）10：15～

ねらい 身の回りにある様々な音素材を生かしてつくった楽器を使って、音楽に合わせて音を出して遊ぼう

| 保育内容（活動内容） | 保育する上での留意点など |
|---|--|
| <p>1 既習曲を歌う（とんぼのめがね、山の音楽家、どんぐり、笑いんぼうコスモス、さんば、畑のポルカ）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・園で歌っている曲をみんなで楽しく歌い、活動の意欲付けをする。 ・幼児の実態や様子を観察しながら、内容や時間の調整を行う。 ・これからの音楽的な活動を楽しく進められるよう雰囲気づくりに努める。 |
| <p>2 「畑のポルカ」で、踊りなど身体表現をしたり、創った楽器で音を出したりして遊ぶ 『 さんのまわりで～ さんをつかまえて ポルカをおどろう』</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな音を使い、どのようなイメージを、どのように表現しようとしているかを大切に活動する。 ・お互いの演奏を尊重し合い、自分たちが気付かなかったよさを認識することにより、自信につなげたい。 ・それぞれの様子は、録音や録画などで、記録をとっておく。 |
| <p>3 みんなで「おもちゃのチャチャチャ」に合わせて、自分たちがつくった楽器で、音を出して遊ぶ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの好きな音を大切にす気持ちをもてるように配慮する。 ・音を出す楽しさを大切に活動を進める。 ・一人一人が楽しんでいることを大切に見守ったり、認めたりする。 ・『チャチャチャ』の歌詞や休符の部分で音を出すように指示はするが、自分の出したいような音の工夫やリズム打ちを優先して活動を進める。 ・直感的・感覚的にリズム打ちをして、楽しむことを大切に活動を進める。 |
| <p>4 これからもみんなで遊ぼう</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者からこれまでの遊びを振り返る。 ・音や音楽でたくさんの遊びができて楽しかったこと、これからも音や音楽で遊んで欲しいことなどを話す。 |

児童の感性をはぐくむ音楽的な活動を取り入れた小学校音楽科における学習指導案

| 第一時「音や音楽を聴き、表現しよう」(授業時間45分) 実施日 11月10日(水) 9:30~ | | | |
|---|-----|---|--|
| 目標 音や音楽に興味をもって、聴いたり表現したりしよう | | | |
| 段階 | 時間 | 学習内容(活動内容) | 指導する上での留意点など |
| 導入 | 20分 | 1 既習曲を歌う(じゃんけんぼん、さんぼ、てとてであいさつ、など既習曲) 2 既習曲で自己紹介ゲームをする 「さんぼ」で自己紹介ゲームをする 『あるこ あるこ 私は 大好き どんどんゆこう』 例)食べ物 ・替え歌での自己紹介 ・身体表現やリズムでの自己紹介 | ・これまで授業で歌ってきた曲をみんなで、歌ったり、聴いたりして活動の意欲付けをする。 ・ただ歌うのではなく、情景や心情を思い浮かべて身体表現する活動を取り入れる。 ・身体表現やゲームを取り入れて、これからの音楽的な活動を楽しく進められるよう雰囲気づくりに努める。 ・身体表現やゲームを取り入れて、これからの音楽的な活動を楽しく進められるよう雰囲気づくりに努める。 |
| 展開 | 20分 | 3 みんなで音を出してみよう ・一枚の新聞紙(紙袋)で音を出そう ・タンブリンの輪(鈴の輪) ・伝音ゲーム | ・感覚的で自由な取り組みを大切にすすめ、子どもの実態や活動の様子を観察しながらゲームを進める。 ・様々な音を出す方法を尊重し、認め合う雰囲気を大切にして活動を進める。 |
| 振り返り | 5分 | 4 今日の学習を振り返りましょう 次の時間の活動について | ・時間が足りない場合は、伝音ゲームはカットする。 ・感想を発表させる。 ・授業者から評価をするとともに、次の活動の予定を知らせる。 |

| 第二時「どんな音があるかな? Part1」(授業時間45分)実施日 11月11日(木)9:30~ | | | |
|--|-----|--|---|
| 目標 身の回りにある様々な楽器の音を聴き取り、表現しよう | | | |
| 段階 | 時 | 学習内容(活動内容) | 指導する上での留意点など |
| 導入 | 10分 | 1 既習曲を歌ったり、音楽的な活動をする | <ul style="list-style-type: none"> これまで授業で歌ってきた曲をみんなで楽しく歌ったり、身体表現をしながら歌ったりして、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 前時の活動内容を振り返り、活動のイメージをもたせる。 |
| 展開 | 30分 | 2 ひみつの音を聴いてみよう <ul style="list-style-type: none"> 身近な楽器を子どもたちに見えないように箱の中に入れて、箱の中で音を出して音を聴く 何の音? どんな感じ?(~みたい?) (打楽器中心に、トライアングル、タンブリン、鈴などの他に、カウベル、拍子木などを準備するなど) | <ul style="list-style-type: none"> どんな感じがするかということが、言葉でなかなか表現できないときは、擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、『みたい』のように答えさせる。 感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にする。 |
| | | 3 音と音を重ねたり、まぜたりして聴いてみよう <ul style="list-style-type: none"> さっきとどのように違う? どんな音?どんな感じ?(~みたい?) | <ul style="list-style-type: none"> 音の違いや音の感じ方を、言葉でなかなか表現できないときは擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて答えさせる。 |
| | | 4 みんなで「山の音楽家」に合わせて音を出してみよう <ul style="list-style-type: none"> 好きな音はどれ? どうして好きなのかな? | <ul style="list-style-type: none"> お互いの好きな音を大切にする気持ちをもてるように配慮する。 |
| 振り返り | 5分 | 5 今日の学習を振り返りましょう 次の時間の活動について | <ul style="list-style-type: none"> 感想を発表させる。 授業者から評価をするとともに、次の活動の予定を知らせる。 |

第三時「どんな音があるかな？Part2」（授業時間45分） 実施日 11月17日（水）9：30～

目標 身の回りにある様々な音を聴き取り、表現しよう

| 段階 | 時間 | 学習内容（活動内容） | 指導する上での留意点など |
|------|-----|--|--|
| 導入 | 10分 | 1 既習曲を歌ったり、音楽的な活動をする | <ul style="list-style-type: none"> ・既習曲をみんなで楽しく歌ったり、身体表現のゲームを行い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 ・前時の活動内容を振り返り、今時の活動のイメージをもたせる。 |
| 展開 | 30分 | 2 ひみつの音を聴いてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・箱や袋、缶を振って、音を聴く ・どんな音？ ・何の音？ ・どんな感じがする？ ・どんな物の中にどんな物が入っているかな？ （チョーク、スティックのりのふた、ねじ消しゴム、鉛筆、輪ゴム、ビーズなど） | <ul style="list-style-type: none"> ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にす る。 ・どんな感じがするかということが、言葉でなかなか表現できないときは、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、答えさせる。 ・どんな音であるかということが、なかなか言葉で表現できないときは、擬音語や身体表現を用いて答えるように指示する。 |
| | | 3 音と音を重ねたり、まぜたりして聴いてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・さっきとどのように違う？ ・どんな感じ、どんな音？ | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな感じがするかということが、言葉でなかなか表現できないときは、擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、『 みたい』のように答えさせる。 ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にす る。 |
| | | 4 音楽に合わせて(おもちゃのチャチャチャ) みんなで音をだしてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・好きな音はどれ？ ・どうして好きなのかな？ | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの好きな音を大切にす る気持ちをもてるように配慮する。 |
| 振り返り | 5分 | 5 今日の学習を振り返りましょう 次の活動の予定について | <ul style="list-style-type: none"> ・授業者から評価をするとともに、次の活動の予定を知らせる。 ・「おむすびころりん」のイメージに合う音を探して音の出る物をもってくるように指示する。 |

第四時「さまざまな音素材を使って、物語に合った表現の工夫をしよう」（授業時間45分）

実施日 11月18日（木）9：30～

目標 身の回りにある様々な音素材を効果音として挿入して、物語にあった表現の工夫をしよう

| 段階 | 時間 | 学習内容（活動内容） | 指導する上での留意点など |
|------|-----|--|---|
| 導入 | 10分 | 1 この音は何だろう？（前回の振り返り） ・箱や袋、缶を振って、音を聴く ・前時の音を聴き合う ・どんな音、どんな感じがする？ | ・これまで見つけた音を聴き合い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 ・前時の活動内容を振り返り、今時の活動のイメージをもたせる。 |
| 展開 | 30分 | 2 「おむすびころりん」に音を付けて表現してみよう ・どんな場面でどんな音が必要かな？ ・どのように音を出せばいいかな？ 3 これまでの身の回りにある音や音楽を振り返り、自分たちが選んだ場面に合った音を選び、音を出す工夫をする | ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にす る。 ・グループごとに、表現したい場面を選び、その場面に合わせて、どのような音が必要か考えさせる。 ・自分の音に対するイメージを大切にさせる。 ・グループごとに、場面に合わせて、どのような音を出せばいいか考えさせ、実際に音を出す工夫をする。 ・必要な音が見つからないときは、自分たちで必要な音を創ることも考えさせる。 ・物語に対するイメージと自分の音に対するイメージを大切にさせる。 |
| 振り返り | 5分 | 4 今日の学習を振り返りましょう 次の活動の予定について | ・感想を発表させる。 ・授業者から評価をするとともに、次の活動の予定を知らせる。 |

第五時「さまざまな音素材を使って物語を表現しよう Part 1」（授業時間45分）

実施日 11月25日（水）9：30～

目標 物語に、身の回りにある様々な音素材を効果音として挿入して表現の工夫をする

| 段階 | 時間 | 学習内容（活動内容） | 指導する上での留意点など |
|------|-----|--|---|
| 導入 | 10分 | 1 場面に合った音素材を選び、その音に対するイメージをもって、音を出す工夫をする（前時の続き） | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで見つけた音を聴き合い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 ・前時の活動内容を振り返り、今時の活動のイメージをもたせる。 |
| 展開 | 30分 | 2 「おむすびころりん」の各場面のイメージをもって、どのような音を効果音として用いればよいか考え、またその場面にあった音の出し方を工夫する （グループごとに場面を選び、その場面合った効果音を考え、その場面合った音を選び、その音の出し方を工夫する） | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージや曲想をもちながら、それを生かした音の出し方を考えることができない児童に対しては、周囲の子ども達と話し合わせたり、ヒントを与えたりする。 ・その場面のイメージにあった音を出すための方法を考えさせる。 |
| 振り返り | 5分 | 3 お互いのアイデアを生かし、グループで使う音を生かして、物語に合わせて音を出す練習をする 4 今日の学習を振り返りましょう 次の活動の予定を知らせる | <ul style="list-style-type: none"> ・場合によっては、その場面にあった音をつくり、（簡易楽器をつくることも含めて）、イメージをもちながら音を出す工夫をさせる。 ・感想を発表させる。 ・お互いの発表を尊重するように配慮する。 ・授業者から評価をする。 |

第六時「さまざまな音素材を使って物語を表現しよう Part2」（授業時間45分）

実施日 11月26日（木）9：30～

目標 身の回りにある様々な音素材を生かして、イメージをもって表現の工夫をし、音楽に合わせて演奏し、聴き合おう

| 段階 | 時間 | 学習内容（活動内容） | 指導する上での留意点など |
|------|-----|--|---|
| 導入 | 10分 | 1 前時の確認 ・各グループで自分たちが選んだ場面の効果音を練習をする ・工夫したところを確認して練習を行う | ・前時までの様々な音素材を使って、音色を聴き、どのような感じがしたか確認し、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。 ・前時の活動内容を振り返り、今時の活動のイメージをもたせる。 |
| 展開 | 30分 | 2 お互いのグループの作品を紹介する ・イメージしたこと、工夫した点はどこなのか、演奏で紹介するとともに、言葉で発表する 3 お互いのグループの演奏を聴き合い、そのよさを発表し合う | ・擬音語で表現したり、身体表現したり、端的な直感的・感覚的な聴き取り、感じ取りを大切にする。 ・一人一人が思い描くイメージ（例：イメージする動物等）を尊重する。 ・どんな音を使い、どのように場面を表現しようとしているか、その演奏の良い点を重点的に評価させる。 ・お互いの演奏を尊重し合い、自分たちが気付かなかったよさを認識することにより、自信につなげたい。 |
| 振り返り | 5分 | 4 これまでの学習を振り返りましょう | ・感想を発表させる。 ・授業者から評価をする。 |

【補充資料2】幼稚園における保育実践の概要（第一日・第二日・第四日・第五日）

| | 第一日 | 第二日 |
|---|---|---|
| 既 習 曲 を 歌 う 活 動 | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「さんぼ」をみんなで歌う b 曲に合わせて、行進しながら歌う c 「さんぼ」の歌詞の『わたしは 』を使っ て自己紹介をしながら歌う d 「山の音楽家」の『ポコボンボン～』を 身体表現しながら歌う e 「とんぼのめがね」を情景などを思い浮かべ 身体表現しながら歌う | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「どんぐりころころ」を身体表現しながら歌 う b 「山の音楽家」の『ポコボンボン～』を 身体表現しながら歌う c 「とんぼのめがね」を情景などを思い浮かべ 身体表現しながら歌う d 「笑いんぼうコスモス」を身体表現しながら 歌う |
| | 2 簡単な歌や身体表現をともなった手遊びゲー ムをしましょう a 「やきいもグーチョキパー」を手遊びをいれ ながらみんなで歌う b 「グーチョキパーで何つくろう」を手遊びを いれながらみんなで歌う c 「太鼓をたたきましょう」を手遊びをいれな がらみんなで歌う | 2 音の強い・弱いに注意して、身体表現しながら歌 いましょう a 『大きな栗の～』で、手遊びをいれながらみ んなで歌う b 『中ぐらいな栗の～』で、手遊びをいれなが らみんなで歌う c 『小さな栗の～』で、手遊びをいれながらみ んなで歌う |
| | 3 おもちゃのシンフォニーを聴いて、みんなで曲に あわせて自由に動きましょう a 鳥の声 それにあった動き（鳥のまね） b 鳥の声 どんな感じ？（～みたい？） c 鳥の声をイメージして、音楽に合わせて自分 なりの身体表現をする | 3 注意して音を聴いたり、工夫して音を出すゲー ムをしよう a 鈴はどこかなゲーム b 伝音ゲーム c 新聞紙で音を出すゲーム |
| 手 遊 を し て 歌 う 活 動 | | 強 弱 を 伴 っ た 身 体 表 現 |
| 聴 い て 動 く 活 動 | | 音 に 注 意 す る 遊 び |
| | 第四日 | 第五日 |
| 既 習 曲 を 歌 う 活 動 | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「どんぐりころころ」をみんなで歌う b 曲に合わせて、身体表現しながら歌う c 「笑いんぼうコスモス」の歌詞に合わせて、 身体表現しながら歌う d 「おもちゃのチャチャチャ」を身体表現しな がら歌う | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「畑のポリカ」を身体表現しながら歌う b 「さんぼ」を身体表現しながら歌う c 「とんぼのめがね」を情景などを思い浮かべ 身体表現しながら歌う d 「山の音楽家」の『ポコボンボン～』を 身体表現しながら歌う |
| | 2 音あてゲームをしましょう a 箱の中で聞こえる音に注意して、何の音であ るか、どのような感じの音が、みんなで答える b 箱の中にある音素材は、打楽器中心に、トラ イアングル、タンブリン、鈴、カウベル、拍子 木、ギ口、カバサ、ボンゴなどを準備して音あ てを行う c どんな感じの音なのかを大切に遊びを進 める | 2 耳をすまして聴いてみよう a これまでの遊びで聴いた音素材を振り返る b 身の回りにはどんな音があるか、耳を すまして聴いてみる c 幼稚園の中で聞こえる音、幼稚園の外で聞こ える音を聴く d みんなでどんな音を聴いたか、発表し合う |
| | 3 好きな音を選んで、音楽に合わせて音を出して みよう a 自分の好きな音を選んでみよう b 選んだ音を出して遊んでみよう c お互いに選んだ音を聴き合おう d 音楽に合わせて選んだ音を出してみよう | 3 好きな音を選んで、みんなで音を出して遊ぼう a 楽器から選んでみよう b 準備したさまざまな音素材から選んでみよう c 身の回りにはどんな音があるかから選んでみよう |
| 音 あ て ゲ ー ム | | 自 然 音 ・ 環 境 音 を 聴 く 活 動 |
| 音 を 出 す 活 動 | | |

【補充資料3】小学校における指導実践の概要（第一時～第四時）

| | 第一時 | | 第二時 |
|--------------------------------------|--|--------------------------------------|---|
| 既 習 曲 を 歌 う 活 動 | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「さんぼ」をみんなで歌う b 「さんぼ」の歌詞の『わたしは ~ 大 好きどんどん ~ 』を使って自己紹介をしながら歌う c 「じゃんけんぽん」をみんなで歌う d 「じゃんけんぽん」を歌いながら、じゃんけん勝ち抜き戦を行う | 既 習 曲 を 歌 う 活 動 | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「さんぼ」をみんなで行進しながら歌う b 「山の音楽家」の『ポコポンポンン~』を身体表現しながら歌う |
| | 音 に 集 中 す る ゲ ー ム | | 2 注意して音を聴いたり、工夫して音を出すゲームをしよう a タンプリンの輪ゲーム b 伝音ゲーム c 一枚の新聞紙・紙袋ゲーム |
| | | 音 を 出 す 活 動 | 3 好きな音を選んで、音楽に合わせて音を出してみよう a 好きな楽器を選び、音を出してみる b 好きな楽器の音を生かして、音楽に合わせて教師が指示したりリズムを刻んで演奏する |

| | 第三時 | | 第四時 |
|--------------------------------------|--|---|--|
| 既 習 曲 を 歌 う 活 動 | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「さんぼ」をみんなで歌う b 「おもちゃのチャチャチャ」を身体表現しながら歌う | 既 習 曲 を 歌 う 活 動 | 1 みんなで歌を歌いましょう a 「さんぼ」を身体表現しながら歌う b 「おもちゃのチャチャチャ」を身体表現しながら歌う c 「山の音楽家」を身体表現しながら歌う d 「おむすびころりん」を身体表現しながら歌う |
| | 音 あ て ゲ ー ム | | 2 音あてゲームをしましょう a 箱の中で聞こえる音に注意して、何の音であるか、どのような感じの音が、みんなで答える b 箱の中にある音素材は、水、石、砂、ビー玉、ビーズ、輪ゴム、米、小豆、ストローなどを準備して音あてを行う c どんな感じの音なのかを大切に遊びを進める |
| 音 を 出 す 活 動 | 3 好きな音を選んで、音楽に合わせて音を出してみよう a さまざまな音素材から好きな音を選んで、音を出す b 音素材を生かして、音楽に合わせて教師が指示したりリズムを刻んで演奏する | 音 の 工 夫 を す る 活 動 | 3 「おむすびころりん」に合う音を選んで、みんなで音を出してみよう a 「おむすびころりん」からイメージする音を選ぶ b 選んだ音素材を生かして音を出す工夫をする c 班ごとにみんなの工夫を生かして音を出す |